

重点目標	共通項目	具体的取組	主担当	年度後半の方針・方策	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	達成度(A+B)%		自己評価			学年末・次年度に向けての方針・方策
							前期	後期	前期	後期	総合	
1. 学力向上と指導力向上		①基本的な学習ルールの定着	生徒指導部	聞き取り又はアンケート調査等で、児童の言葉からも学習規律に対する意識や課題点を把握する。授業中は、聴く姿勢に重点を置き、既存の聴き方のルールを低・中・高別で再検討・改良して指導を行っていく。今後、児童自らが学習規律を大切にしていこうと自己決定を促せるように、実態の把握と適切な指導に力を入れていく。	学年に応じた学習ルールが身に付いている	A：90%以上の児童ができる B：80%以上の児童ができる C：70%以上の児童ができる D：70%未満の児童ができる	<教員評価>①② 80%	<教員評価>①② 80%	C	B	B	児童の実態把握を行い、低・中・高別に課題を設定し聴く姿に重点をおいて指導したことが、児童の姿に表れ評価向上につながっている。次年度は、教室に掲示する学習規律の内容を絞ること・各家庭に学校での学習規律の指導について発信することに取り組んでいく。
		②繰り返し指導による漢字力や計算力の定着 (朝学習・パワーアップタイム・宿題等による補充学習の継続的取組)	学習部	統一漢字・計算テストの点数が全体的に上がったことで、児童は達成感を得ることができたのだと思われる。今回の結果が次回の意欲につながるように、全校の事前の取り組みを共通にし、繰り返し練習に重点を置くことを続けていく。	当該学年の漢字や計算が身に付いている	目標値 低学年90点以上 中学年85点以上 高学年80点以上 A：目標値90%以上 B：目標値80%以上 C：目標値70%以上 D：目標値70%未満	<教員評価>③ 89%	<教員評価>③ 89%	A	A	A	統一漢字・計算テストでは達成感を大切にする。努力すればどの子も百点に届くような問題を設定し、努力する過程に重点を置くことを続けていく。また、計算テストにおいては、その学年の児童が苦手な問題についても出題する。
	◎	③表現する力の育成 (書くこと)	学習部	「ちょこっと作文」で短作文指導を行ってきたことは、児童の書く力につながっていると思われる。また、行事や授業における振り返りなど、書く機会が多いことも、書くことへの抵抗を和らげていると思われる。しかし、条件に合った書き方は十分とは言えず、「ちょこっと作文」に条件作文を増やし、指導の時間を確保していく。	自分なりの考えを書くことができる	A：よくあてはまる (90%以上) B：だいたいあてはまる (80%以上) C：あまりあてはまらない (70%以上) D：まったくあてはまらない (70%未満)	<教員評価>④ 100%	<教員評価>④ 100%	A	A	A	「ちょこっと作文」における指導の成果が表れ、児童は自分なりの思いや考えを書くことはできるようになってきている。しかし、条件が与えられた場合に条件をきちんと満たした文章を書くことはできていない。今後は、ねらいを改め、いくつもの条件を満たした文章を書くことや条件を読み取って書くことに取り組んでいく。
	◎	④表現する力の育成 (半具体物や言葉・数・式・図などを用いて、自分の考えを話す)	学習部	算数科の授業を中心に理由をつけて話させることを意識してきたが、やはり、説明したり意見を交わしたりすることに自信のない子が多い。今後は、授業における話し合いの場を工夫しながら、話す・聴くスキル練習も試みる。一方で生徒指導部と連携し、聴く態度の向上を目指す期間を設定し、児童に意欲をもたせられるような取り組みを工夫していく。	自分の考えを根拠を示しながら話すことができる	A：80%以上の児童ができる B：70%以上の児童ができる C：60%以上の児童ができる D：60%未満の児童ができる	<教員評価>⑤ 78%	<教員評価>⑤ 78%	B	B	B	生徒指導部と連携し、聴く態度の向上を目指す取り組みを行ったところ、話を聴こうとする意識に高まりが見られた。しかし、自分の考えを話す意欲には、まだつながっていないと言える。人前で話すことに慣れておらず抵抗感を抱く児童が見られるので、授業において、全体での話し合いだけでなくペアやグループなどの場を設ける。また、根拠をつけて話す話し方の指導を入れていく。
	◎	⑤家庭学習の充実と習慣化 (学年×10分の定着)	学習部	各担任が児童に声を掛けたり家庭と連携を取ったりして、宿題を忘れる児童は減ってきている。保護者の意識も高まってきていると思われるので、家庭との連携を継続し学習習慣の定着を図っていく。さらに、学年×10分に見合う内容の学習ができるよう、よい学習の仕方や自学の内容を全校に広めていく。	毎日、決められた時間の家庭学習を行っている	学年×10分として A：90%以上の児童ができる B：80%以上の児童ができる C：70%以上の児童ができる D：70%未満の児童ができる	<教員評価>⑥ 78%	<教員評価>⑥ 89%	B	B	B	各担任と家庭が連携を図り、児童に働きかけることで宿題を確実にできる児童が増えている。この働きかけを継続し、強化週間やノートの掲示等を通じて、学年×10分の学習習慣を身につけるとともに、学習内容を充実させていく。
	◎	⑥読書量目標値の設定と到達促進の取り組み (児童委員会活動、教職員や司書による本の紹介、読書カード等)	学習部	読書の取り組みである「能登半島一周」が学校全体で目標を達成させるものだったので、全体では読書冊数は増えているものの、個人の意識が弱くなってしまった。二学期は、個々のデータを担任や児童に知らせ、意識が高まるようにする。また、児童が興味をもち、落ち着いて読書できるように、時間の確保や選書について、担任に働きかけていく。	読書量の目標値を設定し、到達のための手立てが工夫されている	A：よくあてはまる (90%以上) B：だいたいあてはまる (80%以上) C：あまりあてはまらない (70%以上) D：まったくあてはまらない (70%未満)	<教員評価>⑦ 80%	<教員評価>⑦ 67%	B	C	C	貸出冊数が目標を達成していても、本を読んでいるという満足感がない子が増えていることがわかった。また朝読書の様子からも集中して読めていない子もいると思われる。そこで、冊数にこだわらず、朝読書の週30分について、始業前の本の準備や選書のアドバイスをを行い集中して読書ができるように指導していく。そのために、教室に児童に合った本を置き、児童がすぐに本を手にとったり、担任がアドバイスをしたりしやすい環境を整える。
	◎	⑦授業におけるタイムマネジメント	学習部	学校研究や学力向上を意識し、学習内容の理解や集団解決に時間をかけ過ぎると、まとめまでいけなくなるということが出てきた。児童にどんな力をつけたいかを念頭におき、1時間のねらいや課題を考えるようにする。そして、本時のねらいに合わせた学習内容とタイムスケジュールを考えていく。	学習展開のまとめまで到達している	A：よくあてはまる (90%以上) B：だいたいあてはまる (80%以上) C：あまりあてはまらない (70%以上) D：まったくあてはまらない (70%未満)	<教員評価>⑧ 89%	<教員評価>⑧ 89%	B	B	B	限られた時間内に集団解決の場を充実させ、学習内容の理解に深まりをもたせようと意識しながら取り組んできた。今後も、児童につけたい力を明確にして、1時間ごとのねらいや課題を設定する。そして、ねらいの達成とタイムマネジメントの両立ができる授業展開を考えていく。

	◎	⑧校内研修を通じた指導力向上 (外部指導者招聘, 校内研究会の活性化, 相互授業参観, 外部研修への積極的参加と還元等)	学習部	導入の仕方や課題作り, 話し合いの仕方に取り組み, 研究授業ごとに成果や課題が明らかになっている。しかし, その後の検証が十分でなかったため, しっかりと検証を行い, 2学期につなげていく。2学期は, 事後研の持ち方も見直し, 日々の実践に活かせる内容まで話し合いを進めていく。	校内研修を通して, 指導力向上に取り組んでいる	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる (80%以上) C:あまりあてはまらない (70%以上) D:まったくあてはまらない (70%未満)	<教員評価>⑨⑩ 95%	<教員評価>⑨⑩ 100%	A	A	A	事後研の方法を変えたことにより, 参観者が効率よく, 意見を出し合えるようになり, 充実した話し合いができた。また, 後期は指導主事の招聘が叶い, 指導を受けることもできた。さらに, ミニ研究会で日頃の指導を振り返ることもできた。日頃の授業について意識も高まり, 指導力向上につながってきたと思われるので, 取組を継続していく。
	◎	⑨各種学力テスト結果を生かした学力向上の取組 (4月:国, 県, 町学力調査 12月:町学力調査)	学習部	学力向上プランを意識して, 日頃の授業を行ってきた。その検証を行い, 改善して2学期の取り組みを進めていく。学びのロードマップの共通理解が不十分なために, スムーズに動けなかったところがあったので, 今後は声を掛け合い連携を図りながら取り組んでいく。	各種学力テスト結果を生かした学力向上の取組を積極的に行っている	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる (80%以上) C:あまりあてはまらない (70%以上) D:まったくあてはまらない (70%未満)	<教員評価>⑪⑫ 82%	<教員評価>⑪⑫ 78%	B	C	C	学力調査の結果からロードマップに基づいてこれまでの取組の検証を行い, プランを再考して再度取組を進めてきた。プランについての共通理解はできたが, 実践は思ったようにはいかなかったようである。もう一度2月に検証し原因を明確にしていく。ロードマップは, 今年度が初めての取組であったので, 問題点を出し合い, 実践しやすいものに修正していく。
	◎	⑩情報機器を活用した授業実践	情報担当	これまでの校内研修等の取り組みにより, 情報機器を活用しての授業実践が多く見られるようになった。さらに多様な情報機器を活用できるように, 簡単な操作マニュアルを作り提示したり, 情報機器を効果的に活用した授業実践を広めたりしていく。	情報機器を授業に活用している	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる (80%以上) C:あまりあてはまらない (70%以上) D:まったくあてはまらない (70%未満)	<教員評価>⑬ 100%	<教員評価>⑬ 89%	A	B	A	夏休みに, 校内の情報機器の整理と操作マニュアルの作成を行ったことで, これまで活用方法が固定化されていたが, 大型テレビ, タブレット, 電子黒板, 書画カメラと様々な情報機器を活用するようになった。しかし, 教師の利用は増える一方で, 児童が協同学習などで利用することは少ないので, 児童の利用促進を行っていく。
2.豊かな心 の育成と 生徒指導 の充実		①その場に応じた正しい言葉づかい, 思いやる言葉づかいの育成	生徒指導部	言葉づかいに対する意識向上が見られる。そこで, 児童がどんな言葉づかいがよくないと捉えているのかを調査し, 課題を明確にする。課題に出た言葉を減らしていくという目標を掲げ, 授業中や児童会活動等あらゆる場面で, 児童が自主的に声をかけ合ったり, よい姿を教師が褒めたりする場を作っていく。さらに, 学校での指導を各家庭にも積極的に発信することで, 子ども達のよい言葉づかいを目指して, 協力を得られるようにしていく。	場に応じた正しい言葉づかい, 思いやる言葉づかいがきちんとできている	A:90%以上の児童ができる B:80%以上の児童ができる C:70%以上の児童ができる D:70%未満の児童ができる	<教員評価>⑭ 70%	<教員評価>⑭ 55%	C	C	C	「言葉」に対する意識の高まりを感じる。また, 言葉づかいの良い・悪いという判断基準が明確でないことが評価が低い要因にあると考える。場に応じた言葉づかいは, 敬語を使っていたり, 相手に伝わるあいさつをしていたりと良い姿が見られる。次年度は, 友達に対する思いやりのある言葉づかいに絞って指導する。また, 評価項目について, より自分達の姿をイメージしやすいものに改良して再度取り組む。
	◎	②いじめのない温かい学級活動づくり	生徒指導部	言っではいけない言葉は使わないなど, 児童の意識向上があたりかな人間関係づくりにつながっている。しかし, 友達との関わりがなぜ大切なのか考える時間が, 十分に確保されていないという課題もあった。年間計画に基づく活動例を提示したり, 言葉やあいさつの大切さを指導する時間を十分に確保したりすることで, 思いやりのある学級づくりを目指していく。	「人間関係づくり年間指導計画」を活用している	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる (80%以上) C:あまりあてはまらない (70%以上) D:まったくあてはまらない (70%未満)	<教員評価>⑮⑯ 88%	<教員評価>⑮⑯ 82%	A	A	A	継続的な縦割り班活動の取り組みが, あたかな人間関係づくりを生んでいる。その反面, 言葉づかいの自己評価が低いと, あたかな人間関係は優しい言葉かけによって築かれているということ意識して伝えていく必要がある。次年度, 人間関係づくり年間指導計画をより活用しやすい形に変更し, 全教職員で取り組んでいく。
	◎	③主体的に取り組む特別活動	特別活動担当	高学年は, 責任感を持って異学年交流に励んでおり, 徐々に良好な人間関係を築いているが, 主体的に低学年のお世話等を行う児童はまだ少ない。見本となる行動をとることが, 低学年から尊敬・感謝されることや自らの成長につながることに気づかせ, 主体的に活動する姿を目指していく。	ねらいに沿って主体的によりよい学校生活を築こうとする態度の育成に努めている	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる (80%以上) C:あまりあてはまらない (70%以上) D:まったくあてはまらない (70%未満)	<教員評価>⑰ 100%	<教員評価>⑰ 100%	A	A	A	委員会活動でイベントを企画して実行したことで, 高学年には主体性を, 低学年には憧れや感謝の心を育むことができた。さらに, 児童が自分達でPDC Aサイクルを意識して取り組めるようになる姿に近づけていきたい。次年度も, 異学年交流という本校の強みをいかして, 縦割り班活動を継続していく。
	◎	④別業を活用し, 重点項目を意識した統合的な道徳	道徳担当	別業と年間指導計画を作成し, 内容項目が網羅できるようにした。夏休みに, 1学期の重点項目である「思いやり」について振り返り, 現状の把握と今後の課題について考える。2学期は, ゲストティーチャーの活用を行い, 重点項目である「郷土愛」の充実を図りたい。	重点項目を意識した道徳授業を行っている	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる (80%以上) C:あまりあてはまらない (70%以上) D:まったくあてはまらない (70%未満)	<教員評価>⑱ 88%	<教員評価>⑱ 88%	B	B	B	来年度も, 1学期に別業と年間指導計画を作成し, 内容項目が網羅できるようにする。各学級に道徳の掲示コーナー「こころきらきら」のコーナーを設置する。2学期にはゲストティーチャーの活用を行い, 重点目標である「郷土愛」が意識できるよう地域との結びつきを図る。3学期には, 重点目標である「感謝」について授業した内容を学年便りで知らせ, 保護者にも広めていく。
		⑤個別の指導計画や教育支援計画の作成と有効活用	特別支援コーディネーター	児童理解の会で支援の必要な児童の様子や手だてについて共通理解を図った。また, 特別支援学校相談員を要請し, 専門的な立場からの助言をいただいた。しかし, それらを日常の教育活動で十分生かしていないときもあった。今後は, 教育支援計画を生かし, 個に応じた支援を常に意識して取り組んでいく。	個別の指導計画や教育支援計画を作成し, 有効活用している	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる (80%以上) C:あまりあてはまらない (70%以上) D:まったくあてはまらない (70%未満)	<教員評価>⑲ 78%	<教員評価>⑲ 90%	C	A	B	学年末の児童の実態を把握し, 今年度の取組の考察を行うとともに, 次年度の目標や支援方法を考え, 次年度へ引き継ぐ。次年度も児童理解の会で支援の必要な児童の様子や手だてについて全員で共通理解を図ったり, 特別支援学校相談員を要請し, 専門的な立場からの助言をいただいたりする。そして, 個に応じた支援を意識して取り組んでいく。

3. 体力向上と危機管理の育成	◎	①早寝・早起・朝食の定着	保健安全部	今後も継続して規則正しい生活を意識できるように、健康スッキリ調査や健康パワーアップ大作戦に取り組み、全体・個別指導を行っていく。その際、規則正しい生活は全ての活動の基礎となることを、教職員が念頭におき指導していく必要がある。また、家庭の協力が得られるよう、今後も様々な場面を通して啓発していく。	早寝早起朝食の習慣が身に付いている	A：90%以上の児童ができる B：80%以上の児童ができる C：70%以上の児童ができる D：70%未満の児童ができる	<教員評価>⑳ 100%	<教員評価>⑳ 100%	A	B	B	健康パワーアップ大作戦の取り組みにおいては保護者から毎日サインをもらう欄を設け、家庭からの協力が得られるようにしていく。また、学校保健委員会の開催日を授業参観日に合わせ、保護者の参加を増やし、児童だけでなく保護者にも望ましい生活習慣等についての知識を啓発し、学校と家庭が連携し、規則正しい生活習慣を身につけさせていく。
	◎	②体力・運動能力調査の実施・分析・取組	体育担当	新体力テストの結果を平成26年度全国や平成27年度石川県と比較すると、男女ともに50m走の結果が低いことが見受けられる。そこで、萩野台アジリティープランPart2にも書かれているように、50m走が県平均を上回ることを目標として、体育の授業の準備運動で短距離走を取り入れたり、スポチャレ40mを強化種目にしたりにして取り組んでいく。	体力・運動能力調査による課題の取組を行っている	A：よくあてはまる (90%以上) B：だいたいあてはまる (80%以上) C：あまりあてはまらない (70%以上) D：まったくあてはまらない (70%未満)	<教員評価>(21) 89%	<教員評価>(21) 90%	B	A	A	反復横跳びの結果が、5年男子・6年男子・6年女子において県平均を下回った。また、50m走の結果も全体として県平均を下回った。そこで、反復横跳びと50m走の結果が県平均を上回ることを目標として、体育の授業の準備運動で反復横跳びと短距離走を取り入れることで敏捷性と走力を高めていく。
	◎	③事故の未然防止に努めると共に、事故発生時における教職員相互の連携による迅速な組織的対応	保健安全部	マニュアルの活用や、訓練を何度も行うことで、基本的な防災意識や避難行動は身につけてきている。2学期には、地震・火災を想定した休み時間の非難訓練や予告なしの避難訓練を行い、いろいろな場面での避難行動の仕方を身に付けさせていく。教職員は、どんな状況においても児童の命を守るという観点で行動できるように意識して取り組む。	安全指導の実施と事故発生時に教職員相互連携による迅速な対応を行っている	A：よくあてはまる (90%以上) B：だいたいあてはまる (80%以上) C：あまりあてはまらない (70%以上) D：まったくあてはまらない (70%未満)	<教員評価>(22) 100%	<教員評価>(22) 100%	A	A	A	今年度は2回、予告なしの避難訓練を行った。児童は日頃の訓練の積み重ねがあり、避難行動が身につけている。命を守るという意識をもたせ真剣に取り組ませる。職員の動きについても、休み時間、授業中で臨機応変な対応ができるようにする。様々な体験(水消火器体験・煙体験・起震車体験)を2学年ずつ体験させ、必ず体験できるようにする。
4. 開かれた学校づくりの推進と家庭地域との連携	◎	①教育活動の積極的公開と情報発信(学校便り、学年便り、学校ホームページ等)	教頭	保護者や地域の方がホームページ、学校便り等をよく見ていただいていることに感謝し、これからも積極的な発信に努める。今後は、ホームページに保健だより・給食だよりなどを掲載し、多方面の情報発信をしていく。また、学校だよりなどに児童の活動の様子や教育活動などをくわしく載せていくようにする。	学校・学年便り、学校ホームページ等を通して学校情報を発信している	A：よくあてはまる (90%以上) B：だいたいあてはまる (80%以上) C：あまりあてはまらない (70%以上) D：まったくあてはまらない (70%未満)	<教員評価>(24) 100%	<教員評価>(24) 100%	A	A	A	保護者や地域の方がホームページ、学校便り等をよく見ていただいていることに感謝し、これからも積極的な発信に努める。今後は、ホームページに学校だより・学年だより・保健だより・給食だよりなど定期的に発信するものをしっかりアップしていきたい。また、学年だよりなどに児童の活動の様子や学習の様子、学習の予定などをくわしく載せていくようにする。また、年度当初に職員全員がホームページにアップする方法を研修し、誰でもできるようにしたい。
	◎	②地域と連携し、太鼓を中心とした地域の伝統文化の継承	教務部	指導者の方々の協力をいただいて、今年度の太鼓練習が始まった。昨年度の6年生が模造紙に残した楽譜を利用し、これから6年生が5年生に教えながら練習を進めていく。上級生から下級生へ伝えていくことがよき伝統となるよう、今後も練習や発表の機会を設けて取り組んでいく。	太鼓の継承を積極的に行っている	A：よくあてはまる (90%以上) B：だいたいあてはまる (80%以上) C：あまりあてはまらない (70%以上) D：まったくあてはまらない (70%未満)	<教員評価>(25) 100%	<教員評価>(25) 100%	A	A	A	今年度も指導者の方々の協力をいただいて、3地区の太鼓を練習し、運動会・敬老会・ござっさい祭りで、5・6年生が披露する場を設けることができた。昨年度作成した模造紙にかいた楽譜を使って、6年生が5年生に教えることができた。子どもから子どもへ伝えていくことが、よき伝統となるよう今後も取組を続けていく。
	◎	③幼保小及び小中連携の推進(情報交換による相互理解、園児・児童・生徒の交流活動の実施)	連携担当	幼保小連携では、2学期以降に運動会をはじめとした連携行事があるので、年長児に安心や期待がもてるものになるよう工夫して行う。小中連携事業では、多くの活動を通して意義のある体験ができていく。今後、体験後に今の生活にどのように生かしていくかという取り組み(中学校入学前に小学校でできること)を強化して行っていく。	保育所・中学校の相互授業参観や情報交換会、児童と園児や生徒の交流活動を積極的に行っている	A：よくあてはまる (90%以上) B：だいたいあてはまる (80%以上) C：あまりあてはまらない (70%以上) D：まったくあてはまらない (70%未満)	<教員評価>(26) 100%	<教員評価>(26) 100%	A	A	A	幼小連携では、就学時検診・合同運動会・もちつき大会などで、年長児の様子を知ることができ、年長児も小学校での活動を重ねることができている。9月には3年生が学校紹介を行い、年長児とかかわることもできた。2月には1年生による体験入学を行う予定である。小中連携では、町の生徒指導部会で得た中学校の情報(校則など)を小学校へ発信することで、児童に進学をより意識させることができた。今後も一時的な交流だけでなく、継続的な連携を行っていく。